

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

坂城町

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	坂城町里山景観整備事業
事業費 459,000円 (うち支援金: 459,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

- ・松くい虫による被害が継続している。
- ・危険木がライフライン保全に影響をきたし、風倒木の発生により里山の景観を悪化させている。
- ・里山における広葉樹等の整理伐採が急務となっている。

(2) 本事業の目的

- ・被害木処理を行い、被害蔓延を防ぎ、地域の森林づくりを推進する。
- ・危険木等の処理を行い、景観向上及びライフラインの保全を行う。
- ・整理伐採が必要な広葉樹等を伐採し、森林の健全な保全管理を行い、伐採した木材は、きのこの原木材として有効活用する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 坂城町大字南条、大字上平

(2) 対象者 地域住民

(3) 実施方法 町内の団体及び区に対して、松くい虫被害木の処理、景観及びライフラインへの危険木等の除去、広葉樹林の整理伐採等に要する経費を助成する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30 年度～令和 4 年度)

- ・被害木 100 本
- ・危険木 20 本
- ・広葉樹等 50 m³

②令和 4 年度実績

- ・被害木 40 本
- ・危険木 8 本
- ・広葉樹等 6.5 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫の被害木の処理を行うことで、蔓延を防ぎ、森林の健全化を図り、土砂災害を防ぎ、水源の涵養機能の維持増進につなげる。また、危険木等を除去することで、ライフライン等を保全し、里山の景観を向上させることができる。

伐採した木材をきのこの原木として利活用することで、森林資源の有効活用ができる。

(2) 継続性

地域住民が参加することによって、自らの里山を守る自覚が促され、事業の継続性と発展性が期待できる。

(3) 普及性

松林の健全化により、景観の保全と松茸の産出で事業の効果が県民に対し視覚的に確認できる。また、ライフライン沿いの危険木等の除去により安全が確保される。

地域の里山で伐採された原木を利用した、きのこを販売することで県民に対し効果をアピールする

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

令和4年度は、被害木20本の処理計画に対し、40本の実績となった。また、危険木等の処理計画は昨年に達成しているが本年も8本の実績がある。広葉樹整理伐採計画についても昨年までに達成しているが、本年も6.5 m³の実績となり、地域住民の積極的な参加による景観整備が進んでいる。

(2) 課題

昨年同様、松くい虫被害は継続している。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成30年～令和4年までの5ヵ年において、目標とする事業量については達成している。令和5年度から森林づくり推進支援金事業の廃止に伴い、本事業は終了する。

令和4年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

坂城町

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	坂城町森林景観整備事業
事業費 330,000円 (うち支援金: 311,000円)		

事業目的

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

地域の公園となっている里山において、伐倒・くん蒸処理後の松くい虫被害木の枯損木が放置されており、ウォーキングする住民の安全への不安や景観の悪化を招いている。

(2) 本事業の目的

枯損木を搬出し、チップ化することで適正な処理を行うことで、里山の景観保全、遊歩道の安全確保を図る。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 坂城町大字網掛

(2) 対象者 坂城町

(3) 実施方法 現場から松くい虫被害木の伐倒駆除・くん蒸処理後の枯損木を搬出し、工場 でチップ化する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成30年度～令和4年度) ・ $5\text{ m}^3/\text{年} \times 5\text{ 年} = 25\text{ m}^3$

②令和4年度実績 ・ 6 m^3



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

森林の景観保全と林内の安全確保とともに、枯損木のチップ化で森林資源を循環的に活用することが可能となる。

(2) 継続性

地元の里山整備を地元業者に委託することで、関心も高まり、事業の継続性と発展性が期待できる。

(3) 普及性

枯損木を撤去することで、森林景観を保全する。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

令和4年度は、くん蒸処理後の枯損木搬出5 m³の計画に対し、6 m³の実績となり、計画達成した。

(2) 課題

くん蒸処理後の枯損木は、町内のいたるところに存在しており、景観悪化につながっている。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

令和4年度は、計画を超える6 m³の処理を実施したが、里山を中心に今後も引き続き実施して行く。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

令和5年度の森林づくり推進支援金事業の廃止により、従前同様の事業継続は困難であるため、財源の確保等の課題を解決しつつ事業継続を検討していく。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)